

会 議 要 旨

会 議 の 名 称	令和7年度第3回川越市外国籍市民会議	
開催日時	令和7年11月16日（日） 午前10時 開会 ・ 午前11時45分 閉会	
開催場所	川越市国際交流センター 研修室	
座長氏名	須賀 景子（焦雁座長が欠席のため、副座長が会議を進行した。）	
出席者 氏名 (人数)	田中 斌弓、水上 春華、林 玉貞、レ・レ・ウィン、王 勇、グエン・ティ・フォン・タオ、ゴードン・ヘイワード (7名)	
欠席者 氏名 (人数)	焦 雁、安 昌美（2名）	
事務局等 職員氏名	国際文化交流課 福田課長、島居副課長、泉名主任	
会 議 次 第	1 開会 (1) 挨拶 (2) 事務局からの報告事項 2 議題 (1) 家庭ごみの分け方・出し方 (2) 自転車の交通ルール (3) その他 3 閉会	
配 布 資 料	(1) 令和7年度第3回外国籍市民会議 次第 (2) 第3回外国籍市民会議資料 (3) 自転車を安全・安心に利用するために（自転車ルールブック）の作成 (4) 自転車指導啓発重点地区・路線 (5) 自転車を利用される皆さんへ (6) 自転車の交通反則通告制度について (7) 川越生活ガイド	

議 事 の 経 過

1 開会

(1) 副座長が挨拶し、開会した。

2 議題

(1) 家庭ごみの分け方・出し方

事務局より、前回会議での協議事項（現状、課題、解決策）について説明があり、その後、課題の解決策・提言内容について協議を行った。

主な意見

1. 教育と情報提供の強化

① 初期教育の義務化（来日直後）

- ・来日後 1 週間以内にごみの分別やスケジュールについて学べる機会を設け、受講を必須とする。
- ・技能実習生の監理団体に生活オリエンテーションの実施、または市などが実施するものへの受講を義務付けるルールを設ける。

② 動画による情報提供の拡充

- ・多言語対応のごみ分別動画を作成する。
- ・転入手続きの待ち時間に動画を視聴できるようにする。
- ・動画へのQRコードを載せ、自宅での視聴や情報のアップデートを可能にする。

③ 日本語学校でのカリキュラム導入

- ・日本語学校のカリキュラムに生活オリエンテーションや資源化センターへのツアーを組み込む。

2. 地域連携・啓発とアプローチの工夫

① 地域住民による直接的な指導・協力

- ・自治会の人に生活オリエンテーションに参加してもらい、住んでいる地域での運用ルールをより具体的に教える機会を設ける。
- ・回覧板を利用して周知し、地域のつながりを強化する。
- ・自治会関係者が外国人の家に直接ポスティングする。

② 市役所に来ない人へのアプローチ

- ・市役所に来ない層（アパート住民、自治会に入らない人など）へのアプローチ方法を検討する。
- ・観光案内所でもチラシ等を設置し、周知する。

(2) 自転車の交通ルール

事務局より、テーマ選定の背景と自転車の交通反則通告制度（いわゆる「青切符」）の概要、および県警や市の資料について説明があり、その後、課題

や解決策について協議を行った。

主な意見

1. ルールの背景や理由の説明の必要性

① 違反理由の説明

- ・それぞれの違反の背景・理由を示すことで、ルールが理解しやすくなる。
- ・2人乗りはなぜダメなのか（問題ない国が多い）に対し、「日本の道路が狭いから」という危険性を明確に説明する。
- ・ヘルメットはなぜ必要なのかに対し、「道路が狭いため、ヘルメットをしていないと倒れたときに車に轢かれ、命に関わる危険性が高いから」などと説明する。

2. 周知・啓発ツールの改善

① 視覚的ツールの活用

- ・絵やピクトグラムで表示する。
- ・2人乗りのピクトグラムについては、（荷台に）座っていてもダメのかななどの疑問が生じないように配慮する。
- ・資料はカラーで掲示する。
- ・動画を活用する。
- ・標識の違いがルールの理解を難しくしているため、その点に焦点を当てて情報発信を行う。

② 多言語対応

- ・最低でも英語版の資料を作成する。

3. 対象別の周知徹底

① 青切符の対象外となる層への対策

- ・16歳未満にも交通ルールを周知する。

② 観光客への対応

- ・シェアサイクルの利用者にも周知する。
- ・宿泊施設にポスターを貼るなどの連携を行う。

(3) その他

第4回会議の開催日時は、座長と調整の上、決定することとなった。

3 閉会

以上